

第75回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：令和3年11月26日（金）16時30分～18時00分

会場：オンライン開催（zoom） URLはお申し込みいただいた方にご連絡いたします。

テーマ：災害伝承の可能性を探る② ―ジェンダー・多様性の視点から見た災害伝承―

前回（第74回）に引き続き、「災害伝承の可能性を探る」と題したフォーラムを開催します。特に今回は、ジェンダー・多様性の視点から災害伝承を捉え、インクルーシブ防災の実現に災害伝承がどのように貢献できるか議論します。

16:30-16:40 開会・趣旨説明（10分）

16:40-16:55 基調講演「ジェンダーと多様性の視点から見た災害伝承」

話題提供者：李善姫氏（東北大学東北アジア研究センター 助教）

東日本大震災は、様々な記録媒体の発展と大衆化が進んだことによって、より多様な人々が自分や周りの災害経験を主体的に記録した災害と言える。しかし、これら多様な人々の災害記録が公共性の高い「記憶の場」で取り上げられ、「皆が共有する集合的記憶」になっているかどうかは別な問題である。本報告では、東日本大震災後の災害伝承のあり方をジェンダーと多様性の視点から捉え直し、女性やマイノリティが経験した震災の記憶とその教訓が「集合的記憶」、「公共の記憶」として共有されているのかどうかを検証する。近年、防災教育の場として被災各地で開館している災害伝承施設の展示内容を中心に「ジェンダーと多様性」に基づく災害伝承の現状を探り、その課題と可能性について考察する。

16:55-17:10 事例報告①「展示による災害伝承における多様性」

話題提供者：山内宏泰氏（リアス・アーク美術館 館長/学芸員）

さまざまな地域性や文化的背景によって大規模災害の被災状況は多様化する。その多様性を伝承するためには、地域文化に精通した監修者が必要である。報告者は自身が学芸員を務める気仙沼市のリアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示企画、設置に際し、約2年間の現地調査、記録活動を行い、その成果を同展に具現化した。同常設展示に込めた独自の展示理念と、同活動から見えた災害伝承における多様性追求の意味について報告する。

17:10-17:25 事例報告②「災害ドラマやドキュメンタリーにおけるジェンダーと多様性」

話題提供者：鈴木ひかる氏（元 福島県立相馬高校放送局）

相馬高校放送局は、2014年NHK杯全国高校放送コンテストのドキュメンタリー部門で最優秀賞を受賞した。福島で地震・津波・原発事故という厄災を経験した「女子高生」たちが、演劇や講演活動を通して問題と向き合う姿が記録されている。一連の活動は「2013年度JCJ賞」で、高校生として初の特別賞を受賞した。カメラを回し、ドキュメンタリーを制作した私の視点で当時を振り返り、伝承活動におけるジェンダーや多様性について考えたい。

17:25-17:55 パネル討論（30分）

パネリスト：李善姫氏・山内宏泰氏・鈴木ひかる氏

モデレーター：ゲルスタ ユリア

17:55-18:00 閉会・事務連絡（5分）

司会・進行：ゲルスタ ユリア（災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野 助教）